様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：８２７０５
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2015
課題番号：２５７８０５４８

研究課題名（和文）発達障害児の保護者に対する物理的環境調整を主としたペアレント・トレーニングの開発

研究課題名（英文）Development of parent training based on physical arrangement for children with developmental disabilities

研究代表者
神山　努（Kamiyama, Tsutomu）

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・教育情報部・研究員

研究者番号：５０６３２７０９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、発達障害児の保護者に対する、物理的環境の調整を主としたペアレント・トレーニングの集団式を、特別支援学校、通級指導教室、親の会において実施し、その有効性を検証した。さらに、本ペアレント・トレーニングの、支援者対象と保護者対象のテキストを作成し、その有効性を検証した。その結果、いずれの実施場面においても、保護者とその子どもの行動変容が示された。また、作成したテキストについて、発達障害の支援者に実用度を評価してもらった結果、高い肯定的評価が得られた。

研究成果の概要（英文）：The present study was to evaluate effects of parent training based on physical arrangement for parents of children with developmental disabilities in special needs education school, resource room and parents association. In addition, Textbooks of this parent training for trainer and trainee was developed and evaluated feasibility and acceptability by service providers. Results suggest that appropriate behaviors of parents and children increased, and service providers evaluated textbooks of this parent training positively.

研究分野：特別支援教育

キーワード：発達障害　ペアレント・トレーニング　物理的環境調整

１．研究開始当初の背景

発達障害者支援法やインクルーシブ教育システムの構築など様々な観点から、発達障害児の保護者支援を検討する必要性が指摘されている。発達障害児の育てにくさに対する支援方法に、ペアレント・トレーニングが挙げられる。ペアレント・トレーニングとは、保護者に対して体系的な指導により、子育ての方法を教える支援方法である（Cavell, 2005）。これまでに、子どものコミュニケーション（Hardan, Gengoux, Berquist, Libove, Ardel, Phillips, Frazier & Minjarez, 2015）や、日常生活動作（Johnson, Foldes, DeMand & Brooks, 2015）など、様々な行動に対して効果が示されてきている。

その一方で、ペアレント・トレーニングの課題として、保護者が子どもの育ちを促進できるようになる面を目標として強調するあまり、保護者にかかる負担が大きいことが明らかにされている（神山・上野・野呂, 2011）。保護者の負担について具体的には、介入手続きの学習時間や、手続きの実施にかかる負担が指摘されている。そのため、今後のペアレント・トレーニングの研究では、保護者が取り組みやすい標的行動や介入手続きを選定するために、保護者や家庭生活についてのアセスメントの検討や、日常生活で保護者が受ける負担が高いかどうかを視野に入れる必要がある。

２．研究の目的

上記の課題に対して、申請者は先行研究において、日常環境のアセスメントから物理的環境の調整を主とした子育ての工夫を導き、保護者に指導する、「物理的環境の調整を主としたペアレント・トレーニング」を開発し、その有効性を検討した（神山・野呂, 2010a、2010b、2011a、2011b）。その結果、保護者に大きな負担は掛かることなく、子どもの行動変容を示すことに成功した。

一方、ペアレント・トレーニングは集団式で行われることも多い。個別形式は困難な親子の問題に対しても柔軟に対応でき、それに対して集団形式は、参加した保護者同士が支え合う関係を構築することにつながる（井上, 2012）など、いずれの実施形式にも長所がある。そのため、個別形式だけでなく集団形式での実施方法とその有効性を検証する必要もあると考えられる。

本研究では、発達障害児の保護者に対する、物理的環境調整を主としたペアレント・トレーニングを開発し、その有効性を検証することを目的とした。さらに、開発したペアレント・トレーニングの支援機関への普及を考慮して、本ペアレント・トレーニングを実施するためのテキストを作成し、その有効性を評価した。

３．研究の方法

（１）物理的環境の調整を主としたペアレント・トレーニングの効果検証（研究１）

研究１においては、物理的環境の調整を主としたペアレント・トレーニングを集団形式により、特別支援学校（知的障害）、通級指導教室、親の会において実施し、その有効性を検証することを目的とした。そのために、ペアレント・トレーニングの実施中における子どもの行動変容、トレーニング実施前後における保護者に対する質問紙調査の変容を評価した。

（２）「物理的環境の調整を主としたペアレント・トレーニング」の実施テキストの開発とその有効性の評価（研究２）

研究２においては、物理的環境調整を主としたペアレント・トレーニングの実施テキストを作成し、その有効性を評価することを目的とした。テキストの作成は、研究１における本ペアレント・トレーニングの実施者との協議のもとに作成した。作成したテキストの評価は、ペアレント・トレーニング実施者に対する聞き取り調査から検証した。

４．研究成果

（１）研究１

研究１において、いずれの場面においても、物理的環境調整を主としたペアレント・トレーニングの実施後に、子どもの行動変容や保護者の高い満足度が示された。この結果から、本ペアレント・トレーニングの手続きが、教育・福祉のいずれかに限らず様々な支援場面においても実施可能性があることが示された。通級指導教室の実践において、保護者が第 1 回と第 5 回に記入した新版 STAI の結果を Table1 に示した。また、特別支援学校の実践における参加者の子どもの行動変容を、Fig.1 に示した。

Table1　通級指導教室における事例の新版 STAI の結果

	新版 STAI					
	状態不安得点			特性不安得点		
	第 1 回	第 5 回	t 値	第 1 回	第 5 回	t 値
平均点（分散）	51（72.9）	36.2（68.2）	5.15**	52（104）	45.5（44.5）	2.11*
A 母	54（3）	47（3）		53（4）	43（3）	
B 母	46（3）	32（1）		63（5）	53（4）	
C 母	52（3）	32（1）		45（3）	46（3）	
D 母	50（3）	49（3）		45（3）	45（3）	
E 母	40（2）	24（1）		46（3）	38（2）	
F 母	48（3）	41（2）		48（3）	51（4）	
G 母	67（5）	41（2）		68（5）	47（3）	
G 父	－	－		－	－	
H 母	48（3）	37（2）		48（3）	55（4）	
I 母	42（2）	27（1）		38（2）	33（2）	
J 母	63（4）	32（1）		66（5）	44（3）	

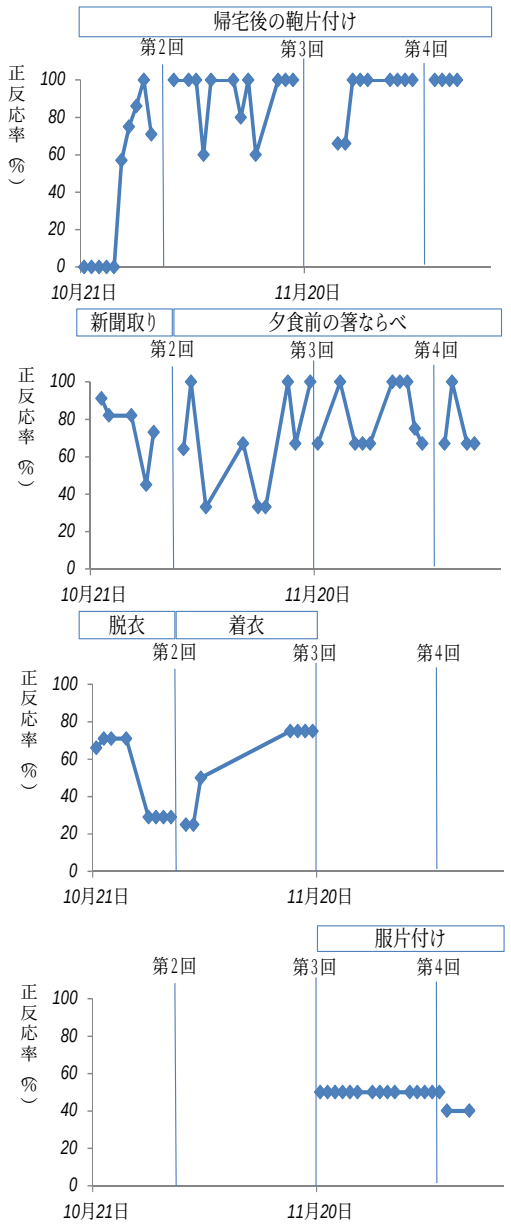

Fig1.　特別支援学校における事例の行動変容の結果

また、特別支援学校における実証研究では、保護者が家庭場面における子どもの課題場面を動画撮影し、その動画をもとに保護者が相互にフィードバックを提示する機会を、トレーニング要素に付加した。その結果、保護者は自身の動画を通して、子どものモニタリングが促進されること、他の保護者に対して称賛や共感を提示する機会が増えることが示唆された。

さらに、親の会における実証研究では、インターネット電話を介してトレーニングを行った。結果は対面式と同様に、子どもの行動変容や、保護者の高い満足度が示された。

（２）研究２

研究２において、開発したテキストについて支援者から評価を受けた結果、支援者は本テキストに高い肯定的な評価をした。その一方で、テキストのみでは適切に本ペアレント・トレーニングを実施できない場合があることが想定され、本テキストを使用しての、ペアレント・トレーニング実施者に対する実施支援研修の検討が課題に残された。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計０件）

〔学会発表〕（計７件）

１）神山努・吉山順子・寺沢久美子（2014）発達障害児の保護者に対するペアレント・トレーニング―保護者による対象児の目標行動の記録からの有効性検討―．日本発達障害第 49 回大会，2014 年 8 月 23～24 日，宮城教育大学

２）神山努（2014）発達障害児の保護者に対する目標行動を具体化したペアレント・トレーニングの事例検討．日本認知・行動療法学会第 40 回大会，2014 年 11 月 1～3 日，富山国際会議場

３）山川直孝・澤田智子・中庭藍・神山努（2014）中学校特別支援学級保護者を対象としたペアレント・トレーニングの実践報告―ペアレント・トレーニングを通した保護者支援―．日本 LD 学会第 22 回大会，2014 年 11 月 23～24 日，大阪国際会議場

４）神山努・吉山順子・寺沢久美子（2015）知的障害・発達障害幼児の保護者に対するペアレント・トレーニングの有効性の検討．日本発達障害学会第 50 回大会，2015 年 7 月 4～5 日，東京学芸大学

５）神山努（2015）特別支援学校（知的障害）におけるペアレント・トレーニングの有効性の検討．日本行動分析学会第 33 回年次大会，2015 年 8 月 29～30 日，明星大学

６）神山努・長谷山高史（2015）発達障害児の保護者に対するペアレント・トレーニングの実践．日本 LD 学会第 24 回大会，2015 年 10 月 11～12 日，福岡国際会議場

７）Tsutomu Kamiyama（2016）Effects of a five session parent training for parents of children with developmental disabilities. CEC2016, 2016 年 4 月 13～16 日，St. Louis

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
神山努（KAMIYAMA TSUTOMU）
国立特別支援教育総合研究所・教育情報部・研究員
研究者番号：50632709